

島根県公立
小中学校
教頭会

会報

R6.3



島根県公立小中学校教頭会

会長 平塚 靖 男

(松江市立揖屋小学校)

今年度をふりかえって

令和五年度の島根県公立小中学校教頭会の活動も県内の会員の先生方のご協力により滞りなく終わろうとしています。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

第四十三回中国地区公立学校教頭会研究大会(島根大会)兼第三十五回島根県公立小中学校教頭会研究大会(出雲大会)を終えて十一月十日(金)に出雲市民会館およびニューウェルシティ出雲を会場にして、「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」ふるさとを学びの原点に、自立、協働、創造していく心豊かな子ども「の育成」を研究主題に標記研究大会が開催されました。当日は、ハイブリット型での開催で、

参集(島根県は全教頭、他県は三%枠で計二六四名)とオンライン(二三九名)で中国地区の教頭先生方の参加が多数ありました。

午前の講演会では、島根大学教育学部講師ダスティン・ジョン・キッド先生から「子どもたちの未来に求めるもの」外国語教育と異文化交流を通しての演題で講演いただきました。わたしは、グローバル化した社会の中で子どもたちが自信をもって活動していくためには、失敗を恐れない子ども「の育成が必要だと感じました。そのためには、ふるさとの魅力を発見・大切にすることが必要だと改めて感じました。

午後は、六分科会に分かれ、十一の提案を受けて熱のこもった

協議がなされました。島根県からも県内六市郡教頭会に、特色ある教育活動と教頭の役割について提案発表をしていただきました。内容として取り上げられていたものの中には、「幼小中の連携、地域との連携と協働の取組、コミュニティ・スクール活用、ICTの活用」などの今日的な課題が見られました。それぞれの分科会でオンライン参加の方からの発言もあり、積極的な情報交換が行われ、自分の宝物として持ち帰られたのではないかと感じています。指導助言をいただきました皆様にも大変お世話になりました。

今大会は、出雲市と雲南市の会員が中心となって実行委員会を組織し、企画・運営をしていただきました。お忙しい中、しっかりと準備をしていただきましたこと、この場を借りて再度、お礼申し上げます。

各部の活動について

本会は、五月十八日(木)の理事会からスタートしました。要請部は、昨年度作成した要望書をもとに七月七日(金)に東京において五人の県選出国會議員に陳情を行いました。また、今年度

の実態調査結果や十月十三日(金)の要請委員会の協議内容を今年度版の要望書としてまとめ、十二月十三日(水)に県教育委員会への要請活動「県教育委員会との教育懇談会」を行いました。県教育庁からは三名の方にお出かけいただきました。お忙しい中、ありがとうございます。

研究部は、十二月七日(木)に研究委員会を開催しました。本年度及び来年度の中国大会で提言発表担当の二市郡に発表をお願いしました。

分散化によって新たな担当制で進められた、庶務部(鹿足)は、中国教頭会総会などの司会を進めたり、記録をしたり、まとめたりしました。

広報部(安来)は、リニューアルしたホームページの更新、充実を行いました。

調査部(邑智)は、六月に実施しました「全国公立学校教頭会実態調査」の「島根県集計結果」の統計分析を行い、報告書を発行して県内の教頭先生方にお配りいたしました。

会員の皆様のご協力により、一年間がんばることができました。本当にお世話になりました。

各市郡教頭会の活動状況

雲南市

会長 難波 淳

(雲南市立木次中学校)

雲南市小・中学校教頭会は、小学校十五名、中学校七名の計二十二名で組織し活動しています。今年度は数年ぶりに年度当初の懇親会を開催し、会員相互の親睦を深めることができました。

会員は、管理部・研修部・教養部の三つの専門部に所属し、定例の教頭研修会では、教頭としての専門性、資質の向上をめざして、各専門部が主体的に計画する研修を積極的にを行っています。

◇令和5年度の主な研修◇

〔九月〕(研修部)

・研修会

「幼小の連携・接続について」

・講師 雲南市立阿用小学校

校長 高木 敏光 氏

〔十月〕(教養部)

・市教委主催「雲南市コミュニティ・スクール全体研修会」に参加

・講師 島根大学大学院

教育学研究科 大野 公寛 氏

〔十一月〕(管理部)

・研修会

「学校での情報リテラシー」
・講師 合同会社きすき技研

代表 長谷川 直人 氏

その他、雲南市教育委員会の施策説明や情報提供を受けたり、市内のまちづくりの拠点施設や社会教育施設を訪問したりもしました。

また、夏季休業中には管内小中学校教頭会研修会が数年ぶりに再開され、出雲市教頭会主管で出雲弥生の森博物館における研修に多数出席しました。管内研修会は、次年度雲南市で開催することになっています。

さらに、十一月出雲市民会館で行われた中国地区公立学校教頭会研究大会(島根大会)には、大会実行委員として、市教頭会から十二名が運営協力をしました。

さて、市内には今年度末に閉校する学校があります。今後ますます統廃合が進んでいく中で、必然的に教頭会のメンバーも少なくなり、今後の教頭会組織やそのあり方について検討する時期が近づいてきていると感じます。隣接する管内教頭会との連携をより一層密にして、広域となっても、より魅力的で持続可能な教頭会となるよう今後の方向性について協議していきたいと思っています。

邑智郡

会長 三宅 誠幸

(邑南町立石見中学校)

邑智郡は県の西部に位置し、美郷町、川本町、邑南町の三町からなります。中国太郎とも言われる一級河川「江の川」が三町にまたがって流れ、春・夏は緑が、秋は紅葉が、そして冬は雪景色がすばらしく美しい場所です。自然の食材が豊富にある場所でもあります。ぜひ一度邑智郡へお越しください。

さて、邑智郡教頭会は、今年度七人の新会員が仲間入りし、小学校十一人、中学校六人の計十七人でスタートいたしました。邑智郡教頭会以外に、各町の教頭会もあるため合同で活動する場面は多くはありますが、教頭同士で情報を交換しながら活動を進めています。

また、今年度は邑智郡が県教頭会の調査部を受け持っております。各校の教頭先生方にはアンケートの回答について、ご協力いただきありがとうございます。

調査部が受け持つアンケート結果の分析・考察についても研修の機会と捉え、邑智郡教頭会の研修内容として取り組みました。

今年度の研修内容については次のとおりです。

今年度の主な研修内容

(十一月)

○調査部アンケート結果の分析と考察について

調査結果の分析と考察について、邑智郡内小中学校教頭で結果を読みこみ、県内の教頭先生が感じておられる課題や負担感を共有し分析と考察を行いました。

各項目の課題について自校の状況と照らし合わせたり、課題解決のために既に行っている取組について情報共有したりしました。

(二月)

○講演「その子らしさの種を育む」
「信じて見守り、ともにいる」

講師「こころ hishima」

高畑 桜様

当山 敦己様

広島県の「こころ hishima」より講師をお招きし、「自分らしく生きる」ことについてお話をいただきました。お話をいただいた内容を自校に持ち帰り、自校研修に役立てたいと考えています。

邑智郡は、令和七年度島根県公立小中学校教頭会研究会(江津大会)において、第四部会での発表があったっています。そちらに向けても、郡内で取組を進めていきます。

全国大会「石川大会」に参加して

松田 淳 (益田市立小野中学校)

私が所属する益田市教頭会中学校部会では、十一月十日に開催された第四十三回中国地区公立学校教頭会研究大会(鳥根大会)の第三分科会において実践発表を行うために、昨年度より共同研究を行ってきました。校務DX確立のための学校間協働について研究する中で、他県の先進的な取り組みに学ぶ必要性を感じ、八月三・四日に石川県金沢市で開催された第六十五回全国公立学校教頭会研究大会(石川大会)に参加しました。

移動手段の関係で前日に金沢入りし、大会は午後からの開始でしたので、午前中は金沢二十一世紀美術館や兼六園などの有名な文化施設を見学しました。歴史あるものと新しい文化が融合した金沢の魅力を味わうことができました。

話を聞くことができ、地方の美術館としては異例の年間百万人を集める美術館づくりの取組など、美術科教員の私には、美術と魅力ある学校づくりやまちづくりとの両面から学ばせてもらえたとても有意義な時間でした。

二日目は、分科会が行われ、第三分科会「教育の環境整備に関する課題」に参加しました。長崎県雲仙市教頭会からの地域との連携についての発表と、愛知県名古屋市教頭会からのICT環境を含めた教育環境整備についての発表を聞き、北海道留萌市、群馬県渋川市、栃木県宇都宮市、愛知県豊田市の教頭先生方とのグループ協議でそれぞれの学校での実態や取組について話し合い、学びを深めることができました。参加の目的としていた校務DXについても、紙文書の削減(職員間や保護者配付など)や欠席連絡処理の効率化など学校で取り組むべきことや、校務支援システムの導入や県配置の校務DXコーディネーターとの連携など行

政と協力して推進すべきことが見つかりました。

大会をとおして、著名な講師の方々のお話を直接聞くことができ、他県の教頭先生方の熱意とカリキュラム・マネジメントの実践に触れることができ、大きな刺激とエネルギーをいただいた二日間でした。

第四十三回

中国地区公立学校

教頭会研究大会(鳥根大会)

第三十五回

鳥根県公立小中学校

教頭会研究大会(出雲大会)

を終えて

実行委員長 後藤 英興
(出雲市立西田小学校)

【令和三年度】
この年に出雲市教頭会の会長を務めておりましたので、中国教頭会研究大会のことが気がかりとなっていました。

まず、出雲市教頭会ブロック長会で話し合うこととしました。
その結果、日時と場所、そして基本的にハイブリッド方式で行うことを確認しました。

会場をおさえ、これでお役御免と
思っていたのですが...

【令和四年度】

次年度は出雲市教頭会長 高橋教頭先生を実行委員長に、役員や部長を決め、ふた月に一回ほどの実行委員会を行いました。私はオブザーバーとしての参加です。

大きな仕事は第一次案内の作成で

したが、僅か四ページを作るのに、これほど苦労しなければならぬとは思像していませんでした。研究副主題の決定、講師選定、指導助言依頼、参集かハイブリッドか...など限らないと思えるほど検討事項があり、完成までに多くの時間を要しましたが、無事二月に発行することができました。

一次案内の発行に先立ち、この年の中国地区公立学校教頭会(鳥取大会)に参加しました。ハイブリッド方式でしたが、次年度開催地ということで鳥根から何名か参加をさせていただきました。このお陰でかなり具体的なイメージができました。この時出会った実行委員長の平井教頭先生に後々大変お世話になることになりました。

【令和五年度】

思いもよらぬことに、再びの出雲市教頭会長、そして中国教頭会研究大会の実行委員長を務めることになりました。「大役」「重責」という言葉や激励を数多くいただきましたが、基本的には重く考えないことにしました。日々の業務も市教頭会の業務もあります。教頭先生方の力を結集

して、極力粛々と進めていこうと考えました。

新たに身に着けた特技(?)は、「忘れること」。特に、失敗については、具体的なリカバリー以外は気にせず忘れるようにしました。皆様への失礼・非礼の数々は、この紙面をお借りして陳謝します。

年度当初に関しては、「出遅れた」感が否めません。新役員や新部長の選出についてはブロック会議等を経なければならず、第一回の実行委員会は想定より遅くなりました。また、中国大会開催要項を早目に皆で読み込んでおけば、後で慌てることも少なかったと思います。私の至らぬ点でした。

右も左も分からない中、先述の平井先生、前年度鳥根県教頭会長の林先生、そして鳥根県教頭会事務局の黒田さんには、スタートにあたってのアドバイスを数多くいただきました。

大会会長も乃木小学校の原田教頭先生と決まり、鳥根県教頭会長の塚教頭先生、県研究部長の大坂教頭先生、快く実行委員を引き受けていただいた十五名のメンバーと共に、十一月十日の本番に向けて出発しました。

大会開催にあたり私が考えたこと、いわば大会裏主題は、「分科会を盛り上げる」ということでした。せっかく時間を費やして貴重な発表をしていただくことに応えたいという思いからです。

できるだけ準備の負担を少なくすることも重要なことだと考え、「大切なことでも、スッパリやめる」ことにしました。例えばコンベンションを開催することや、教頭以外の来賓の方をお招きすることを、協議を重ね行わないことにしました。重要性は承知のうえでの決断です。

逆に、必要と思えることは多少大変でも実行しました。例えばスタンプが目印として着けていた黄色いリボンがあります。全て手作りです。また、万一に備え、救護の方もお願いしました。ご参加いただく方のためになることは、真摯に考え、実行した自負があります。

七つの専門部のメンバーや活動状況もぜひ具体的にお知らせしたいところですが、涙を吞んで割愛いたします。業務多端の日々にも関わらず、頼りない実行委員長を支えてもらいました。雲南市教頭会にも協力を仰ぎ、会長の難波教頭先生をはじめ、

快くご協力をいただきました。思わぬ出来事も数多くありましたが、その都度皆で力を合わせて乗り切ってきました。

講演講師の鳥根大学講師、ダスティン・キッド氏にも、複数回の打合わせやビデオ撮りなど、我々の意図を汲んで最大限のご協力をいただきました。

全国公立学校教頭会から山崎副会長様はじめ二名の方、各県教頭会会長、研究・研修部長の方々のご参加を得て、いよいよ大会当日を迎えることとなります。

そして大会当日。このことについては、ご参加いただいた皆様にご覧いただいた通りです。ご都合で参加が叶わなかった皆様には申し訳ございません。講演では心に沁み入るお話をいただき、分科会では、皆様のご協力により、活発な意見の交換がなされました。提案者、指導助言者、運営責任者、司会者、記録者、そしてリモートの運営を無事行っていたいただいた業者の方に、深く感謝いたします。

講演の内容や分科会での協議内容が皆様の記憶に残り、さらに学校運

営に生かされていけば、この上のこととはありません。

この原稿を書いている段階では、まだ大会後の業務が残っており、最終的にどんな感情がやってくるかわかりません。現時点で確かなことは大会を通じての「繋がり」です。ご参加いただいた五百十二名の方をはじめ、文中にご登場いただいた皆様、後援をいただいた皆様、会場スタッフの皆様、印刷製本・弁当などお世話になった業者の皆様、物品を貸与してくださった皆様など、多くの方と繋がることができました。これは実行委員としての財産です。

最後になりましたが、次のような有難いご感想いただいていることを紹介し、バトンを山口県教頭会の皆様にお渡しします。

「実行委員の方のお気持ちだが、隅々まで行き渡っていることを感じた大会でした。」

※文中大会名は全て、「中国教頭会研究大会」と略称しています。



要請部活動状況

要請部長 野島 博行

(松江市立竹矢小学校)

◎全国要請推進部長会

【期日】七月六日(木)

【会場】都市センターホテル

(東京都千代田区)

新型コロナウイルス五類移行を受けた本年度は、各都道府県の部長参集で開催されました。日本大

学文理学部教育学科教授 末富

芳氏からは、「教員不足を改善す

る令和のチーム学校体制の構築」と題してご講演を頂きました。と

りわけ、教員を志願する大学生を増やすことについての話からは、

行政の施策を待つばかりではなく、学校現場でも取り組むべきこと

とがあることを実感しました。また、分科会における協議の場では、

各府県の教員不足への対応方法等の共有を行いました。

翌七日(金)には、島根県選出の自民党国会議員の皆様に対してい

たいただき、「力になりたい」との、心強いお言葉をいただいたことを

ご報告します。

全国公立学校教頭会の「文教施

策・文教関連立法並びに予算措置に関わる要請」については全公教ホームページに掲載してありますので、ぜひご覧ください。

◎第一回要請部正副部長会

【期日】六月九日(金)

【会場】松江市立鹿島中学校

○今年度の活動計画の作成・確認

○各市郡教頭会宛てアンケートの作成と役割分担

◎第二回要請部正副部長会

【期日】八月十八日(金)

【会場】松江市立竹矢小学校

○各市郡教頭会からのアンケート取りまとめ

◎島根県教頭会要請委員会

【期日】十月十三日(金)

【会場】サンラポーむらくも

彩雲の間

○県教頭会「教育条件に関する要望書」の内容について、市郡代表要請部員による協議

◎第三回要請部正副部長会

【期日】十一月二十一日(火)

【会場】松江市立意東小学校

○今年度の島根県教育委員会への要請事項の原案作成と、島根県

教育委員会との教育懇談会資料の準備・運営方法の確認

◎島根県教育委員会との教育懇談会

【期日】十二月十三日(水)

【会場】市町村振興センター

六階 大会議室

【出席者】県教育庁から三名、

県教頭会から八名

【懇談会の内容】

・教育課程過積載問題への改善について

・六十歳を越えて働く教職員への適正な待遇実現について

・会計年度任用職員の配置拡充について

・初任者研修の精選と、初任者及び学校の負担軽減について

☆「教育条件に関する要望」を県教育委員会に手交しました。

☆「教育条件に関する要望」並びに島根県教育委員会からの回答については県教頭会ホームページに掲載します。

【活動を振り返って】
今年度も、県教頭会会員の皆様方から「教育条件に関する要望」についての貴重なご意見をいただき、「R5 要望事項」としてとり

まとめ、県教育委員会に手交しました。各市郡要請委員の皆様には「要望事項」の取りまとめにご協力をいただきましたこと、心から感謝申し上げます。

学校が日常を取り戻した令和五年度。それまで新型コロナウイルス感染症まん延問題に隠れていた教育条件に関する諸課題が改めてクローズアップされたと実感します。島根県教育委員会との懇談の場では、教育委員会の皆様から、学校に寄り添い、その声を真摯に聴き、できるだけ力になりたいという熱意を感じたところ。我々教頭会も、ただ要望を出し、結果を待つというのではなく、教育条件の改善に向けて現場なりの努力をする必要があり、教頭はそのためのリーダーシップを発揮する必要があると思います。

今後も島根県教育委員会との連携をさらに強め、諸課題の解決に向けて、本会の活動をさらに充実させていきたいと存じます。ありがとうございます。



研究部より

研究部長 **大坂 慎也**
(松江市立島根小学校)

本年度も研究部の活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。中国地区公立学校教頭会研究大会(島根大会)を盛況のうちに終えることができました。運営にご尽力いただいた出雲・雲南の教頭先生方をはじめ、県内すべての会員の皆様に心よりお礼申しあげます。

一 今年度の取組

○第六十五回全国公立学校教頭会研究大会(石川大会)

- ・期日 八月三日(木)、四日(金)
- ・本県より参加者十二名、オンライン参加者二十名

○第四十三回中国地区公立学校教頭会研究大会(島根大会)

- ・期日 十一月十日(金)
- ・中国地区より 約五百十二名

(参集及びオンライン)

○島根県教頭会研究委員会

- ・期日 十二月七日(木)
- ・内容 全国研究部長会等報告
研究大会発表割当

今後の研究大会について
提言発表および協議

昨年に続き半日開催とし、オンライン併用で開催しました。活動報告

等に続き、前述の島根大会における提言者による発表・協議と、次年度の山口大会で発表予定の提言について協議を行いました。特に次年度発表の2市郡の研究内容については、これまでの当該市郡での取組についての発表をいただく等、研究部員の皆様にお力添えをいただきました。

二 来年度の取組

○第六十六回全国公立学校教頭会研究大会(高知大会)

- ・期日 七月三十一日(火)、八月一日(水)
- ・開催地 高知県高知市

○第四十四回中国地区公立学校教頭会研究大会(山口大会)

- ・期日 十一月二十二日(金)
- ・開催地 山口県山口市小郡
- ・島根県からの提言

【第五分科会】

教職員の専門性に関する課題
提言者・飯石

【第六分科会】

副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題
提言者・仁多
皆様のご参加をお待ちしています。

調査部より

調査部長 **濱野 健一**
(美郷町立邑智小学校)

昨年五月に新型コロナウイルス感染症が五類に移行され、学校現場もコロナ禍以前の日常が少しずつ戻り始め、様々な工夫をしながら、行事や学習活動に取り組まれた一年ではなかったでしょうか。また、会員の皆様におかれましては、学校運営、人材育成はもちろん、GIGAスクール構想への対応や教員不足問題など、学校を取り巻く多くの課題への対応に日々奔走されておられたことと思います。

そのような中、今年度も、会員の皆様にご協力いただき、実態調査報告書にまとめることができました。心よりお礼申しあげます。

本調査をまとめるにあたり、邑智郡教頭会で分析・考察を行いました。昨年度の調査結果との比較ならびに校種による実態の比較を中心に、会員の皆様のおかれている実態について多くのことを読み取ることができました。ぜひご覧ください。今後、関係機関への要請を行っていきます。各市郡におかれましても、本調査の目的である要請活動に生かしていただければと思います。

事務局より

事務局長 **錦織 清子**
(松江市立美保閑小学校)

本年度の本会の事業も、県内の教頭先生方のご協力により滞りなく終わろうとしています。

コロナ禍が明けた今年度は、これまでの、オンライン会議に加え、参集により顔を合わせて会議を行うこともでき、交流も深めることのできた一年でした。今後はそれぞれの会のもち方の良さを取り入れ、更に有意義な会となることを願っています。常に多忙な毎日であります。皆様のご健勝をお祈りいたします。

島根県公立小中学校教頭会事務局
 松江市立美保閑小学校
 〒690-1313 松江市美保閑町下宇部尾五五番地
 錦織 清子
 TEL (〇八五二) 七二一九二〇〇
 島根県公立小中学校教頭会事務局
 〒690-0886 松江市母衣町五五
 高根県教育会館内
 TEL FAX 〇八五二 二七七八八〇
 事務局員 黒田 真喜子
 (勤務日) 月(金) (勤務時間) 九時~十五時
 ホームページアドレス
<https://simatou5.jp/>
 E-mail
simatou5@galaxy.ocn.ne.jp

